


肢体不自由特別支援学校における知的障害を併せ有する児童一人一人の実態に応じた教科指導の充実を図る取組  
 — 小学部知的国語科の観点「読む」における「授業デザインシート」の作成と活用を通して —


研究構想図

長期研修員 松村 秀人


児童一人一人の実態に応じた知的国語科指導の充実



習得状況が把握でき、指導内容が実態に合っている手応えを感じた！



指導内容に合った学習活動が設定しやすくなった！



勉強が楽しい！  
できるように  
なってうれしい！

一人一人の実態に応じた

授業実践

指導目標、指導内容、学習活動の設定

知的国語科(観点「読む」) 授業デザインシート

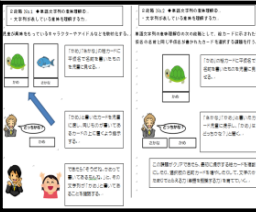
指導内容・活動例一覧				評価シート			
指導内容	学習活動	指導内容・活動例の特長	指導内容	評価方法	評価基準	評価	児童の学習の様子
<div style="border: 2px solid yellow; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>② 指導内容 ・活動例一覧</p> <p>「評価シート」と照らし合わせて、 学習要素、活動例等を確認</p> </div>			<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>① 評価シート</p> <p>知的国語科の習得状況を把握</p> </div>				
			<div style="border: 2px solid green; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>③ 学習の履歴</p> <p>指導目標、指導内容、指導内容設定の理由、指導後の評価を記述</p> </div>				

興味・関心等

これまでの学習の様子

補助資料

**指導事例集**  
各指導内容における学習活動例を記載




補助資料


**評価用図版・カード**  
習得状況を把握するための補助教材




知的障害を併せ有する児童生徒の教科指導の難しさ



どこまでできているのか分からないな。設定した指導内容は、本当にこれでいいのかな？



設定した指導内容に合った学習活動や教材は、どんなものが考えられるかしら？



僕に合った勉強ならもっと頑張れるのに...  
(障害特性に応じた支援)

流れ  
実態把握  
指導目標・指導内容の設定  
授業実践  
評価

活用の手順

実践事例

◇「評価シート」  
◇「評価用図版・カード」

Point  
・身に付きつつある  
内容の把握

◇多面的な実態把握

Point  
・これまでの学習の様子、興味・関心等

◇「指導内容・活動例一覧」  
◇「指導事例集」

Point  
・何を学ぶか  
・どうやって学ぶか

単元  
「まとまりでよもう」

◇「学習の履歴」

Point  
・系統的・継続的な指導につなげる

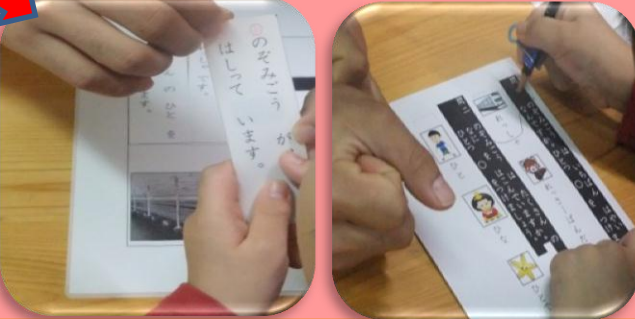
評価シートから			多面的な実態把握から
2段階	文字の見分け(形の弁別)②	「あ、き、て、の、し、も」の平仮名カードを1枚ずつ提示し、「これと同じのはどれかな?指しでね。」と聞く。「あ、き、て、の、し、も」から選ばれる。	
	文字と読み的一致③	「かめ」の「か」はどれ?と聞き、「かみのしひ おも こうま」から選ばれる。「かみ」の「み」、「おふる」の「お」、「もも」の「も」、「にめ」の「に」、「うし」の「う」、「まい」の「ま」も同様に聞く。	○
	単語の読み④	「それぞれの名称を平仮名で書いた単語を提示して読ませ、その物の絵を選ばせる。読めなくても文字を見て選ぶのでも良い。」	△
3段階	三文程度の文章の音読①	・三文程度の文章を読ませる。補助教材「ひこうき」	X
	簡単な説明文の読み取り①	・文章に出てきた内容に関する簡単な質問をする。補助教材であれば、「どんな乗り物が出てきましたか?」「ひこうきは人や何を運びますか?」と聞く。	X

ここに注目!

指導目標	指導内容(取り扱う学習要素)
○三文程度の文章を、単語のまとまりを手掛かりに音読し、簡単な内容を読み取ることができる。	単語のまとまりを手掛かりに、書かれている内容を読み取ること。(単語の読み、三文程度の文章の音読、簡単な説明文の読み取り) (指導内容設定の理由) 本児は、単語の読みに対する関心が高く、文を読む際にも単語のまとまりを手掛かりにすることで読めるようになってきた。また、単語の理解を高めることで文意を捉え、内容を読み取ることもできると考え、指導内容を設定した。

簡単な説明文の読み取り  
・短い文章の音読  
・テーマの理解

・文章を文単位に分けて、書かれている内容を読み取り、各文のキーワードに印をつけておく。最後にバラバラになっている文を話の流れに沿って並べ、文章を完成させる。  
・「それから」「～ので、○○。」「～から、○○。」「けれども」などのことばを用いた文を扱い、話の前後関係をとらえる。  
・扱われている動物や植物、乗り物などの特徴が書かれているところに線を引いたり、○で囲んだりして、友達と確認し合う。  
・児童の興味・関心に沿った、身近な動物や虫、乗り物などについて簡単に説明した文を扱う。文章に関わる写真やイラスト、挿絵などを用いて理解を高める。  
・「ここ☆☆☆教材」「のりもの」「むし」「はな」「かじ」



児童が自ら学習に取り組むようになった。

成果

☆授業構想の手順を可視化したことで、指導目標、指導内容の設定が容易になった。  
☆デザインシートの蓄積が学びの履歴となり、系統的・継続的な指導が行いやすくなった。

課題

★観点「聞く・話す」「書く」に応用する。  
★「評価シート」による評価項目の妥当性を高める。

提言

一人一人の実態を的確に捉え、実態に応じた指導目標、指導内容、学習活動を設定して、教科指導を充実させていきましょう。